

おおいた豊後大野ジオパーク現地審査報告書

平成 25 年 8 月 26～28 日

小泉武栄 大野希一（島原半島） 片山 彰（阿蘇）

現地対応者（所属）

橋本祐輔（推進協会長 豊後大野市長）、小野泰秀（推進協副会長 豊後大野市議会議長）、富高松雄（推進協顧問 大分県生活環境部長）、加藤孝昭（推進協理事 豊後大野市観光協会会長）、宮崎淳一（推進協理事 大分県生活環境企画課長）、羽田野隆敏（推進協幹事 豊後大野市商工会事務局長）、梶原 浩（推進協幹事 大分県生活環境企画課参事）、赤嶺且治（推進協事務局長 豊後大野市商工観光課長）、大野真寛（推進協事務局次長 豊後大野市商工観光課参事兼ジオパーク推進室長）、伊藤健一、後藤賢太郎、豊田徹士、高野弘之、原嶋宏司（推進協事務局員 豊後大野市ジオパーク推進室）、松木京子、恒賀健太郎（おおいたジオパーク構想担当課 大分県生活環境企画課）、後藤宕子、伊井光正、川野 真、森 誠一、渡部順子（協議会認定ガイド）他

見学地点：豊後大野市歴史民俗資料館・緒方上井路・軸丸棚田・祖母傾国定公園・尾平鉦山跡・川上溪谷・滞迫峡・出合橋・轟橋・原尻の滝・神楽会館・沈墮の滝・大飼石仏・犬飼港跡・菅尾磨崖仏・道の駅みえ

現地審査のまとめ

豊後大野地域は、約 9 万年前に発生した阿蘇 4 火砕流が浸食されてできた溪谷にかかる美しい滝や柱状節理からなる地形・地質と、磨崖仏などの祈りの文化を中心とするジオパーク構想である。ここにはさらに日本一の数を誇る石橋と、丘陵地に張り巡らされた水路があり、ほかに棚田や、祖母傾山系、尾平鉦山など、多彩なジオサイトを持つ。これらの見どころの多くは法的にも実質的にも保全されており、持続可能な方法で活用が実現できる条件を有している。豊後大野市の施政方針にジオパークが明記され、ジオパークを推進する協議会が強く連携しているほか、大分県からもジオパークの事業推進について強力なサポート体制がある。ジオパークを運営する事務局には、文化財関係の専門家を含む十分な数の人員が配置されていることに加え、地域の魅力を発信するガイドも存在し、ジオパークとしての価値を保証し、かつそれを発信する上で十分な体制が整っている。その一方で、ジオサイトの価値を説明した解説板や、ガイドブックなどがほとんど整備されていないなど、現段階では来訪客の受け入れ態勢に大きな課題がある。来訪客の受け入れ態勢を含め、ジオパークを活用した地域整備に関する具体的な計画づくりとその実行が急務である。

1) ジオサイトと保全

ジオサイトの多くは祖母傾国定公園や国の史跡などに指定され、法的保全がなされている。また、多くの仏像文化財については地域住民による自主管理も行われ、持続可能な方法で地域資源が活用できる条件を有している。今後は九州島全体の成り立ちの中で祖母山や尾平鉦山、そして阿蘇 4 火砕流の発生を位置付け、広い視点で地域の成り立ちをストーリーとしてとらえる必要がある。

2) 教育・研究活動

市内すべての小中学校の総合学習の中にジオパークが採り上げられており、地域の将来を担う子供たちが持続的にジオパークを学ぶ機会が確保されている。また大分県の協力により、姫島と豊後大野の小学生がジオパークを軸に交流を開始するなど、実質的な活動が始まりつつある。研究活動については、植生面では祖母傾国定公園エリアを中心とした調査蓄積があるものの、地形・地質の専門家による地域地質の持続的な研究活動の整備については、今後の課題である。

3) 管理組織・運営体制

市の施政方針にジオパークの事業推進が明記されているほか、市議会や関係団体もジオパーク活動への理解と意欲を有しており、協議会全体の連帯感は強い。協議会事務局には、ジオパークを運営していくうえで十分な知識を有した人材が配置されているほか、協議会の活動を全面的に支援している大分県の職員とも十分な情報共有がなされている。今後、地域の多様な資源をジオパークとして活用していくためには、文化財の専門家に加えて、地形・地質の専門家とのさらなる連携が求められる。

4) 地域の持続的発展とジオツーリズム

7名の認定ジオガイドのほか、市内に複数のガイド団体が存在し、地域の魅力をジオパーク的視点で発信する意欲にあふれた人材が豊富である。今後、これらの人材がジオガイドとしての経験を積むことにより、来訪客の受け入れ態勢の整備はさらに進むと思われる。その一方で、ジオサイトの解説板の設置計画がない事や、来訪者が手に取るパンフレットやガイドブックなどの冊子類がほとんど整備されていないこと、さらに拠点施設の整備など、ツーリズムの面については課題が山積している。「九州オルレ奥豊後コース」との連携が望まれる。また、地域の持続的発展を実現するためにも、地域コミュニティの強化と維持に貢献してきた神楽や獅子舞、シイタケやお米、そしてそのお米を利用した地酒等、豊後大野地域ならではの独自の文化や特産品をジオパークと連携させて売り出すなどの工夫が必要である。

5) 国際対応及びネットワーク活動

地域内では特に外国人向けの情報発信は行われていない。ジオパークの世界認定いかにに関わりなく、解説板には英語を併記するなど、外国人来訪客向けの対応も必要である。また、阿蘇などの九州のジオパークとは、ツーリズムを含む地域連携の強化が求められる。

6) 防災・安全

九州北部豪雨を契機に、豪雨災害の記録をガイドの中に採り入れるなど、地域防災に関する意識は高まっている。今後はジオパーク教育の中の一つのコンテンツとして、火山災害を含めた自然災害とその防災を採り上げていく必要がある。また、ジオサイトの中にはガードレール等がなく、土地勘のない来訪者の見学には注意を要するサイトが複数ある。案内者の安全管理が必要である。